

第1回 こども環境キャンプ



2025年6月1日(木)

NPO 法人こども環境活動支援協会（LEAF）は、障がいのあるなしにかかわらず誰もが自然に親しめる機会を提供しようと、全2回の「こども環境キャンプ」を企画。「阪急阪神 未来のゆめ・まち クラウドファンディング」の認定事業で、賛同者から寄付金を募って開催にこぎつけました。初回は農業体験とダンス交流で、6月1日（日）に当協会が管理する西宮市立甲山自然環境センターで実施しました。

アダプテッドスポーツ（身体の状態に合わせて工夫し、だれもが参加できるスポーツ）の普及をめざす、一般社団法人日本アダプテッドブレイキン協会（高橋俊二代表理事、以下、JABA）のダンス教室に通う障がい者と家族の8世帯20人、寄付者2人を招いたもの。神戸女学院大学農業研究部の学生ボランティア7人がアシスト役を担い、熱中症など緊急時の対応として看護師1人、JABA ダンス講師や LEAF スタッフなど総勢38人が交流しました。

農業体験は、当協会が管理する有機の野菜畑を活用。参加者はタマネギの葉の付け根をつかんで真上に引き抜き、約40キロ分を収穫し、丸々と実った玉を掲げて大地の恵みに喜びを味わっていました。



スコップで土に穴を開け、サツマイモ（シルクスweet）の苗も植え付け。挿し穂（種芋のつるを切り取ったもの）を斜めに差し込んで土を被せ、やさしく手で押さえます。農業研究部の学生が活躍し、参加者に付き添って植え方を手ほどきしました。



後半は、JABA の高橋代表による指導で、参加者やスタッフ、ボランティアと一緒にダンスを楽しむ交流会を甲山自然の家で実施。相方を見つけて指や腕、身体の動きを真似たり、振り付けを考えて一緒に踊ったりと、遊びながら和気あいあいとダンスを堪能。最後はそれぞれの組が創作ダンスを発表してフィナーレを飾りました。

第2回は11月1日から甲山自然の家に宿泊し、サツマイモの収穫や自然体験、調理実習、廃棄物を使った楽器作りの3イベントを1泊2日で実施する予定です。

